

第1回新技術導入に関するハンズオン支援事業検討会 議事概要

<日 時>

令和5年7月31日(月) 9:30~10:30

<参加者> (敬称略)

・委員

東北大学 教授 久田 真、東京大学 准教授 長井 宏平、日本大学 教授 岩城 一郎、
東京大学大学院 教授 堀田 昌英、富山市 政策参与 植野 芳彦

・事務局

国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 課長 齋藤 博之、企画調整官 岩井 聖、
企画調整課 金井 仁志、調整官 原田 駿平、課長補佐 前羽 利治、係長 中村 憲明、
係長 高島 佑樹 (記)

<内 容>

(1) 検討会設置要領 (案) について

新技術導入に関するハンズオン支援事業検討会設置要領案について説明し了承された。

(2) 座長選出について

座長は久田委員、副座長は岩城委員に決定した。

(3) 募集要領 (案) について

下記の通り説明を行った。

委 員：市区町村というと、人口が百万人ぐらいの政令指定都市から、人口が数千人の村まで幅広くあるが、選定する市町村はどの規模を想定しているか、

事務局：規模の小さい自治体に絞った方が良いのではないかなど、様々な議論をしたが、技術者が誰もいなくて人口も少ない所に限定した場合に募集をしてこないのではと懸念もあり、今回はフラットに人口規模、技術系職員の数で縛らずに地方公共団体という形で募集させていただき、応募様式に記載の内容を確認しながら、どのようなところを選出するのか検討していく形にしたいと考えている。

委 員：応募様式にハンズオンをどのような形で希望しているのか、アドバイザーは地元が良いのか、最先端技術なのか、自治体職員や地元企業でも使える技術かなどを記載して欲しい。

事務局：今のご指摘を踏まえて、新たに記入欄を設けるような形で修正する。

委員：応募様式の記載例に、今回応募する自治体が現時点において長寿命化計画を策定しているのか、それらがどのような状況かを記載していただきたい。

事務局：応募様式の記載例にその内容を追記する。

委員：本公募では、維持管理業務を維持、補修・修繕としているが、詳細に記載するべきではないか。

事務局：ご指摘を踏まえて修正する。

委員：公募要領に想定される新技術を記載して欲しい。

事務局：我々としては、これまでどこの市町村で活用していないような新技術から、既に活用されている技術等幅広く見ていきたいと考えており、その旨を記載させていただく。

委員：BRIDGEに関連する取組であることを公募要領に追記するべき。

事務局：ご指摘を踏まえて、公募要領に追記する。

(4) 今後の日程（案）について

事務局より日程案について説明を行い、委員に了承を得た。